

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住専売店
Tel 3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
Tel 090-2657-0300

認知症を理解して、寄り添って
笑顔で声掛けしませんか

「認知症は誰でもなりうる身近なもの」

現在、認知症の人の数は50万人を超え、65歳以上高齢者の約7人に1人が認知症と見込まれています。鉄の女と言われたイギリスのサッチャー元首相も晩年は認知症になりました。また、アメリカのレーガン元大統領も自ら認知症のアルツハイマー病を告白しました。認知症は誰でもなりうる病です。

「徘徊という言葉は使いません」

徘徊とは、あてもなく、うろろうろと歩きまわること、特に目的があるわけではないが歩き回っている状態をさして使われます。ところが実際は「買い物に家を出たが、帰路が判らなくなつた」「銭湯に出かけたが、迷つて」など、認知症の方は目的があつて外出し、そして迷つてしまつているのです。わけのわからない人と見るか、何か目的があつて来たけれど迷つてしまつて不安で困っている人と見るかでは、ずいぶん違いますよ。

近年、厚生労働省は「徘徊」↓「ひとり歩き」と文書、口頭で使用しています。「徘徊」という言葉の使用を取

りやめている自治体も増えていきます。国立市では、認知症の方が外に出て迷つてしまうことを「徘徊」と言わずに、「いいあるき」迷つてもいい、安心できる心地よい歩き」と表現しています。

「目を見てゆっくりと声かけを」

認知症になつたらおしまいでは決してありません。確かにできないこと、忘れてしまうこともたくさん増えていきます。それによる苛立ちや不安を抱えています。認知症だから何もわからなくなり奇妙な行動をすると決めつけてしまうことは歩み寄りを止めてしまい、その人の尊厳を傷つけてしまいます。認知症を知つてその人の立場に立つて状況を理解しようという姿勢が優しい気持ちを生みだします。

認知症の人は、尊厳と希望を持つて認知症とともに生きています。認知症があつてもなくても同じ社会で住み慣れた地域で安心して暮らせることは大事ですね。「迷つても大丈夫」

昨年（平成30年）、警察に行方不明届が出された方の中で認知症又はその疑いによる方は1万927人です。迷子高齢者の方に気づき、迷子に声をかけるように声をかければ、行方不明などの事故を未然に防ぐことができます。

迷子になるからと外出を抑制するので

はなく、迷つても誰かが声をかけてくれる。助けてくれる。行き先が判らなくなつた方への声かけは、車内で席を譲るように、重い荷物を一緒に持つように、できないことへの手助けです。

街なか声かけ講習会「『徘徊』を『さんぽ』に変える街づくり」に参加しませんか。学びと気づきの講習会です。



第7回街なか声かけ講習会

～『徘徊』を『さんぽ』に変える街づくり～

日時：令和元年11月16日（土）午後1時～4時

集合場所：首都大学東京 荒川キャンパス182教室

参加費：無料

第一部「認知症ケアの基本を学び、

コミュニケーション技法の基本を振り返ってみよう」

講師：井上薫氏（首都大学東京健康福祉学部准教授）

第2部：声かけ体験

申込・問合せ

東尾久地域包括支援センター Tel 5855-8513